

墨田区教職員組合ニュース 2023. 9. 5

(東京都公立学校教職員組合墨田支部)

連絡先メールアドレス：ar5t-kym@asahi-net.or.jp ホームページ：<http://www.asahi-net.or.jp/~ar5t-kym>

東京教組ホームページ：<https://tokyokyouso.org> Twitter でも時々発信しています。多忙のため不定期です (^人^)

「今、学校が大ピンチ！」日教組働き方改革中央集会の報告



7月27日、多くの教職員が集まり、集会が行われました。日教組委員長、現職教員からの発言のほか、尾木直樹さんと教育インターナショナル (EI) 会長、日本PTA全国協議会会長からビデオメッセージが寄せられました。集会の最後に、参加者全員で「持続可能な学校のための7つの提言」の実現のために、全国連帯のもと、現場の声を国・社会に届け、多くの人々との対話を通してとりくむことを確認しました。また、7～8月、日教組は、「教育現場の働き方改革に関する意識調

査」を実施しました。寄せられた6273の回答(8/23現在)のご意見の一部は、日教組ホームページに掲載されています。現場の声をもとに日教組は文科省と交渉しています。

持続可能な学校のための7つの提言

- 提言1** 「わかる授業」「楽しい学校」づくりのために、教員の授業の準備の時間を確保することが必要です。
- 提言2** すべての校種で少人数学級の実現が必要です。
- 提言3** ささまざまな背景をもつすべての子どもたちのために、教職員の拡充とスクールカウンセラー等の専門職の配置・拡充が必要です。
- 提言4** 子どもがゆとりある学校生活をおくるために、学習指導要領の内容削減など、学ぶ内容の見直しが必要です。
- 提言5** 若手教職員をサポートするために、人員配置の拡充も含めた業務軽減が必要です。
- 提言6** 教員が本来業務に専念するために、文部科学省の示す「業務の役割分担・適正化」を文部科学省の責任においてすすめる必要があります。
- 提言7** 教員のいのちと健康を守るために、「定額働かせ放題」の「給特法」の廃止・抜本的見直しが必要です。

尾木直樹さん

教育実習に行って、希望を取り下げる学生が急増している。大きな問題。小手先の対処療法ではだめ。本質的なところにメスを入れる必要がある。ブラック職場と言われるような状況を改善しないといけない。

1971年「給特法」成立当時は、週あたりの残業時間は約2時間だった。その分を教職調整額として上乗せしている。給特法の抜本的見直し・廃止が必要。文科省や教育委員会は現場を応援する姿勢をしっかりと持ってほしい。やりがい依存から脱却すべき。

女性部権利実態アンケートにご協力ありがとうございました。

女性部権利実態アンケートは、227 人の方からご回答いただきました。ご協力いただいたみなさま、ありがとうございました。寄せられたご意見を都教委要請に生かしていきます。ご意見の一部を紹介します。

- 管理職から休暇等についての説明が詳しいことを都が問題視すべき。
- 働き方改革、勤務時間を守るためには、行事の時数の見直しが必要だと感じます。業務を増やすばかりで減っていないので、そもそも働き方改革になっていないのではないかと感じています。本当に進めるなら削減が必要ではないかと思っています。
- 表向きは働き方改革をしている風だが、働きづらくなる一方で、実質的に改善されていない。逆に仕事は増えている。
- 管理職の掲げる理想が現職の教員の実態に即していない。
- 市教委からの無茶振りが甚だしい。
- 病休者が毎年出ている。教職員のメンタルヘルス対策をしてほしい。勤務時間内に仕事が終えられよう仕事の精選をすべきである。コロナ禍で減ってものは増やさないようにする。持ち時数に上限を設けてほしい。産休代替や病休代替を、管理職が探すだけでなく教育委員会も積極的に一緒に探してほしい。人がいないのが本当に大変辛い。担任がいないと子どもも保護者も教職員もみんなが辛い。とにかく正規でも非正規でも人が欲しい。教職員の働き方を改善し、待遇をよくすることで、教職員のなり手を増やさないといけない。「ブラック」な働き方をしていたら、人が集まらない。
- 時間講師が大変そう。残業が多すぎる。授業時間だけしか賃金の対象になっていないのに、ちゃんと仕事をしようとして、ただ働きをしている。私たちと同じ構造。
- 産育代替教員が見つからない。教員の数が圧倒的に足りない。
- 現任校では働き方改革が叫ばれているが、必要な話すべきことが話せない。あくまで自主的な残業とされ、調整などは宿泊行事以外ついたことがない。議論の場がなく、トップダウンがスタンダード。モチベーションが上がりません。
- 授業時数が多すぎる。児童が学校にいる時間が長すぎる。「働き方改革」をしようという意識が低い。
- 会議を勤務時間だけで設定しようとする 15 分しか時間が取れず、時間が休憩時間に延びてしまうことが多く悩んでいる。
- 土曜授業はものすごくキツイので、やめてもらいたい。子どもも多く休んでいるし、休んだ児童のフォローで余計な仕事が増えている。

東京教組青年部アンケート実施中です！(9月15日まで)



アンケート用紙を7月にお送りしました。ぜひご協力おねがいします。

～ 注目ニュース ～

- ★8月5日、墨田区八広にある朝鮮第五初中級学校で、改修前の現校舎では最後となるコリアンフェスタが開催されました。子どもたち、歴代の卒業生や先生方、保護者、地域の方など約1000人規模で盛大に行われました。
- ★8月18日、約1700人の会員からなる「日本労働弁護団」が、「公立学校の在り方に関する意見書」を出しました。現場の声を後押しする内容となっています。インターネットで検索して、ご一読ください。

～ 今後の予定 ～

- ✓ 9月22日(金)狭山事件の再審を求める東京集会
18時半～ 台東区民会館9階ホール
- ✓ 10月14日(土)東京教組「障害児」教育研究集会
13時半～ ラポール日教済
- ✓ 10月21日(土)東京教組教育研究集会 12時半～ 日本教育会館8階
- ✓ 10月21日(土)第五のなかま会設立総会 14時半～ 東京朝鮮第五初中級学校

東京教組では、組合員を随時募集しています。
東京教組ホームページの「加入申込」から、加入することができます。パワハラや異動の相談にも応じます。